



地域連携室ニュース

“美心” (ちむぐる)



独立行政法人国立病院機構
沖縄病院



〒901-2214
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号
TEL : 098(898)2121
FAX : 098(898)6433 (地域連携室直通)

2021年3月 No.104 発行/地域医療連携室



外来・検査棟

南病棟(がん専門・神経筋・結核・緩和・包括)

神経筋病棟

【沖縄病院 病床数：300床】
 ★がん専門病棟：60床
 ★神経筋病棟：145床
 ★緩和ケア病棟：25床
 ★結核病床：30床
 ★地域包括ケア病棟：40床

【沖縄病院 診療科の案内】
 ★肺がんセンター ★外科
 ★呼吸器内科 ★消化器・一般内科
 ★脳・神経・筋疾患研究センター
 ★脳神経内科 ★緩和医療科
 ★放射線科 ★麻酔科 ★病理診断科

【目次】
 1 ページ：独立行政法人国立病院機構沖縄病院
 2 ページ：副院長挨拶・地域連携室長挨拶
 3 ページ：臨床研究部紹介
 4 ページ：部門紹介・研修医紹介
 5 ページ：病棟・療育指導室紹介
 6 ページ：看護師派遣・連携病院紹介

基本理念
 患者さまの立場を尊重し
 高度で良質の医療を提供します

運営方針

1. 政策医療を中心に、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実

GINOWAN CITY FM 81.8Mhz
 ぎのわんシティFM

毎週月曜日9時30分から当院職員による病気に関する様々な情報をラジオ放送しております。当院HPにも放送内容を掲載していますのでご覧ください。

副院長 挨拶

令和2年度を振り返り



大湾 勤子 副院長

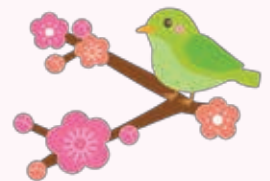
2020年は「コロナ感染症」の蔓延によって、当院も多くの変革がなされました。感染症対策として、発熱外来の体制整備や入院患者の面会や外出制限を行うことになりました。さらに病棟の編成が行われ、使用する病棟や働くスタッフもコロナ感染者に対応する体制が整い、重点医療機関として診療に従事しました。入院患者さんには、制限が多くつらい入院生活になったと思います。しかし一方で、iPadを導入して、面会や診療ができる仕組みづくりに取り組んだり、診療科を超えて全医師による発熱外来のPCR検査を実施するなど、病院職員が一丸となって、さまざまな制限のある中で、医療や看護の提供ができるように取り組んだ一年だったと思います。「ピンチの時にチャンスあり」という前向きな姿勢で、職種、部署を超えて頑張った職員に、感謝の気持ちでいっぱいです。

対外的には近隣の医療機関との連携を継続し、薬剤部による地域薬局との連携、臨床研究部の他施設との共同研究などにも力を入れることができたと思います。

働き方改革の一環として、実務にあたる勤務時間が短縮され、さらに効率化が求められた年でもありました。

2020年はたくさんの工夫をスピーディーに求められた激動の年でしたが、2021年はさらに、これまでの経験を生かして前進を図ることになります。

「己にサスペクト、相手にリスペクト」—よく自らを吟味しながら、他者への敬意を忘れずに2021年も最善の医療が提供できるよう努めていきたいと思っています。



地域連携室長 挨拶

令和2年度を振り返り



仲本 敦 地域連携室長

新しい年を迎え、皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年も、沖縄病院の医療に対するご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症(COVID19)流行のため、日本中、世界中がパニック状態に陥ってしまいました。COVID19一色で終わった感じがします。当院も当初からCOVID19には関わり、当院での限られた医師数、スタッフのなかで、患者様の受け入れを行ってきました。地域包括ケアシステムの構築が進められた令和元年7月に、当院でも一般病棟の40床を地域包括ケア病棟へ変更し、周辺医療機関と密に連携を図りながら地域の皆様へ安心安全な医療サービスの提供を始めたところでした。しかしCOVID-19に対応するための病棟再編により、現在は地域包括ケア病棟を一時閉鎖しております。今はCOVID19が早く収束することを願うばかりです。

一方、COVID-19が猛威をふるい続ける中におきましても、当院が重点をおいて実施している神経難病、肺がん、結核の診療、緩和医療におきましては、多くの医療機関と密に連携を図りながら、スタッフが一丸となって、患者様をお受けするとともに、質の高い診療の維持に努めています。

私ども沖縄病院、地域連携室スタッフ一同、今後とも地域の医療機関の先生方、スタッフの皆様方との連携を深め、皆様から「信頼」「信用」され、さらに安心して患者様を御紹介頂ける病院となることを心がけていきます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

臨床研究部 紹介

「寄り添う探究心」



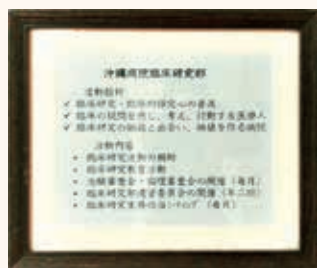
河崎 英範 臨床研究部長

立春も過ぎ、明るい時間が長くなりつつある候ですが、まだまだ見通しの立たないコロナ禍の中、控えめな日々が続きます。COVID-19の拡大は生活の中にも、そして日々の診療の中にも大きな変化をもたらしました。医学研究にも大きな課題を投げかけ、世界中で様々な基礎研究や臨床研究、そしてワクチン開発から接種まで、大きなベクトルでこれまでにないスピードで進められています。当院でもCOVID-19に関わるいくつかの臨床試験がまさに進行中で、医局、看護部、薬剤部、検査科と病院全体で取り組んでいるところです。

沖縄病院臨床研究部は試験の有効性、安全性を評価し、院内での実施調整役としてさまざまな臨床試験に関わっております。当院は歴史的に肺結核、肺癌をはじめ呼吸器疾患と、神経難病の診療の専門性を強みに臨床研究活動が進められ、歴代先輩方により多くの業績を積み上げてまいりました。そして臨床研究活動をさらに推進すべく2019年4月より臨床研究部として国立病院機構より承認設置となりました。研究活動は未来を見据えた人間の知的行動で、臨床研究は患者さんに寄り添う心が大切と考え、「患者さんに寄り添う探究心」を臨床研究部の基本理念に掲げております。そして活動指針を「臨床の疑問を感じ・考え・行動する医療人」、「臨床研究の価値に出会い価値を創る病院」としました。臨床研究のテーマは日々の疑問、患者さんの悩みを感じとる力が大切と考え、また研修医、若手スタッフが臨床研究の楽しさに触れ、そして新しい価値を創り出す気風、伝統を創り上げたいと考えております。

臨床研究部には院内の診療に応じ6つの室「呼吸器疾患研究室」、「がん集学治療研究室」、「内視鏡・画像研究室」、「臨床神経科学研究室」、「基礎神経科学研究室」、「治験管理室」を設け、それぞれの分野で研究、試験を進めております。もちろん診療との併任業務で仕事は増えますが、未来の診療の礎“夢”を作る仕事と考えています。

実施中の治験、臨床研究課題を当院ホームページ (<https://okinawa.hosp.go.jp>) に掲載しております。ご協力いただける方は、臨床研究部または地域連携室まで、ご連絡お願いいたします。



長山 あゆみ CRC



●臨床研究部 業務内容について：長山あゆみCRC

1. 臨床研究活動の補助：現在登録されている臨床研究課題は70件、製造販売後調査・副作用報告は16件あり、他施設との連携、依頼者(企業)との相談、各部門との調整、患者・家族への説明、症例報告書作成、データ管理などを行っています。
2. 臨床研究教育活動：eAPRINの受講を啓発しています。
3. 倫理審査会の開催：2020年は33件の倫理審査課題と19件の審査会報告事項が挙がり、倫理指針に基づいた研究が行われているか討議されています。臨床研究部では、申請に必要な書類作成、利益相反管理、委員会の準備や運営、実施状況報告や有害事象の報告などを行っています。
4. 臨床研究部運営委員会の開催：円滑な運営を図るため委員会が開催され情報共有をしています。
5. 臨床研究実務担当ミーティング：関係部署間でのコミュニケーションを強化し活性化に努めています。

●医療機関の先生方へ：当院で実施している研究では神経疾患や呼吸器疾患に関するものが数多くあり、筋ジストロフィーや脊髄性筋萎縮症、抗酸菌症や肺がん治療、最近のものではCOVID-19患者を対象としたコルヒチン治験などがあります。また国立病院機構におけるネットワークを活用した臨床研究にも参加できるため、対象患者さんのご紹介や臨床研究への参加にご協力いただけると幸甚に存じます。よろしく願い申し上げます。



新型コロナウイルス感染症予防対策について



池間 忍 企画課長

当院では、新型コロナウイルス感染症が発生している中、患者さんが安心して受診・入院できるように新型コロナウイルス感染症にかかる交付金を活用しながら、様々な感染防止対策の取組を行っております。

主な取組といたしましては、

- ・新型コロナウイルス感染症の受入病棟の各病室に簡易陰圧装置を設置し、病室内を陰圧化し、室内への給気、および外部への排気は、HEPAフィルターを通してろ過できるようにして感染防止を図っております。
- ・HEPAフィルターを搭載した車椅子型アイソレーターを導入し、新型コロナウイルス感染症の患者が入院する際には、他の患者とは違う入口から車椅子型アイソレーターにて搬送を行い、感染防止を図っております。
- ・正面玄関自動ドアの改修を行い、動線を入口専用と出口専用に分けて、来院者が交差しないような動線へ変更し、入口には非接触型のサーマルカメラと手指消毒用のアルコールディスペンサーを設置して、入館前に発熱チェック及び手指の消毒をお願いしております。また、ロビーにはスタッフを配置し、発熱チェックとマスク着用の有無、発熱履歴の確認を行うなど、院内に発熱者や新型コロナウイルス感染症が疑われる方が入館しないようにトリアージを行い、感染防止を図っております。
- ・発熱者や新型コロナウイルス感染症が疑われる方が来院した場合には、HEPAフィルター付パーティションを設置した専用の待機場所に案内し、発熱者と非発熱者が交差・接触しないようにしております。
- ・PCR検査機器を導入し、入院患者や内視鏡検査患者に対して、事前にPCR検査を実施して、安心・安全に入院や検査が実施できるように努めております。

上記は一例となりますが、それ以外にも様々な取組を実施しており、今後も全ての疾患の患者さんと職員の安全確保を図りながら、地域に必要な



医療を提供していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。



発熱患者待機場所



簡易陰圧装置

新型コロナウイルス患者を受け入れる各病室に設置

臨床検査科「臨床検査科における新型コロナウイルスに対する取り組み」

当院は結核医療中核病院として沖縄県内の結核診断・治療の中核を担っております。

そのため結核の原因菌や類似菌の同定に以前より遺伝子検査(PCR検査)を導入しています。昨年より猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、当初は院内で抗原検査のみを行っており、PCR検査は行政機関や外部検査機関に委託しておりました。しかし感染拡大防止、治療方針の早期決定の必要性から、既存の機器を使用して9月より自施設でのPCR検査を始めました。検査時間は1時間程度で、迅速な結果報告が可能となりました。



臨床検査課職員一同

さらに今年からは新型コロナウイルス感染症専用のPCR検査機器の導入に加え、抗体検査も開始し、患者様一人ひとりに応じた検査が提供できるようになりました。



PCR検査機器

現在当院では発熱外来の患者様だけでなく、入院予定・内視鏡検査前の患者様もPCR検査を行っており徹底した感染対策を行っております。未曾有のコロナ禍の中で日々変化する医療現場において、検査部門も常に最新の情報を収集し早期診断、治療を行うために安心できる医療を提供していきたいと思ひます。

南4病棟 (がん専門病棟)

大嶺 あゆみ 看護師長



当病棟は、がん専門病棟の46床、呼吸器外科を中心とした呼吸器内科・消化器外科の混合病棟です。救急患者の受入れと手術療法や化学療法、放射線療法などの集中的治療を行う急性期の役割を担っています。周術期看護が主ですが、内科的看護として化学療法も多い時で6件/日対応しています。

患者さんが安心して落ち着いた環境の中で治療や看護が受けられるようにと考え、病棟医長と化学療法認定看護師中心に病棟に化学療法室を設置する取り組みもしています。今後も患者さんに専門的治療や看護が提供できるよう、医師・薬剤師・栄養士・がん認定看護師とチームで協働していきたいと考えています。

最後に今年度は想定外の新型コロナウイルス感染症の影響で、患者さん御家族には色々とお陰様

で安全に感染管理ができたことに感謝し、引き続き感染予防を徹底し病棟運営を行ってまいりますのでよろしくお願い致します。



観察室



化学療法室の様子



退院支援カンファレンス開催中

療育指導室

医療療養型・障害児入所 介護契約について

矢野 良恵 主任児童指導員



「療養介護サービス」は障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスです。医療的なケアが必要な障害のある方で、常に介護を必要とする方に対し、主に日中、病院において行われる機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び日常生活上のお世話をを行う、医療機関(病院)の入院生活を支える為のサービスで、療養介護サービスにおいて医療に関わるものを療養介護医療として提供をします。当院の療養介護病床は脳神経内科病棟にあり、当院での療養介護サービスの対象となる方は、(1)筋ジストロフィー患者で、障害支援区分5または6の方 (2)筋萎縮性側索硬化症(ALS)疾患等、気管切開を伴う人工呼吸器管理を行っている者であって、障害支援区分6の方です。基本的に18歳から64歳までの方が対象となり、18歳未満の方は「医療型障害児入所契約」を結んでいただいでのご入院となります。利用者へ適切な医療や介護のサービスを提供するため、療養介護サービス利用のご希望があった場合、受け入れの可否については福祉手続きのほかに医療情報や当院医師の診察等も必要となりますので、詳細はお問い合わせください。理学療法、作業療法、言語療法などは主治医が必要と判断したケースについて個々に実施しています。日中活動については、人工呼吸器をつけた利用者の方がほとんどですので、デイサービスなどからイメージされるような毎日利用者みんなで集まる活動は実施していません。さらに現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事や多人数で集まる活動、ボランティアとの活動などが実施できていませんが、カラオケや美術クラブなど少人数でのクラブ活動や、隔週でベッドサイドでの個別対応を行っています。コロナ禍で面会や外出泊の制限がある中、以前に比べてインターネット利用者が増えており、ご自身のパソコンやiPadなどで自分の時間を楽しんだり、ご家族との連絡手段に使ったりとそれぞれが自分の生活に活かされています。

患者様の作品





幸地 友恵 副看護師長

沖縄県コロナ対策本部の要請を受け、2月1日から2月14日までの2週間、沖縄病院から看護師5名で医療支援活動を行ってきました。

宮古島では、医療提供体制がひっ迫しており、病床が不足していることから救急搬送できず、命の選択が起きてしまう現状がありました。ベストな医療を受けられず亡くなっていく方々、その家族の思いを受け止めながら命の重さを実感しました。

このような状況での医療支援活動は、葛藤やもどかしさ、悩みなど精神的に困難なことが多く、派遣された5名でお互いの状況や情報を共有し現状を受け入れながら、今の自分ができる看護を考えながら、医療支援活動を行ってきました。2週間の医療支援活動では、保健所・県立宮古病院・施設スタッフ・自衛隊・DMAT・ジャパンハート・沖縄県各地の病院など18の機関から、医療従事者45人が終息に向けて連携し、困難な状況を乗り越え日常を取り戻していく状況があり、連携の大切さを実感することができました。

今回の医療支援活動を通し改めて実感した命の尊さや、地域における医療看護の重要性、連携することの大切さを今後の看護に生かしていきたいと思えます。



沖縄病院と連携していただいている医療機関をご紹介します

医療法人真愛会 伊佐整形外科



院長 伊佐 眞

- ◆ 診療科目 / 整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科
- ◆ 所在地 / 〒904-2173 沖縄県沖縄市比屋根2丁目-3-3
- ◆ 電話番号 / 098-931-1111
- ◆ 休診日 / 日曜日、祝祭日、水曜・土曜の午後は休診です。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8 : 45 ~ 12 : 00	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△
午後 2 : 00 ~ 5 : 30	◎	◎	×	◎	◎	×	△

整形外科は骨・関節・筋肉・神経等の運動器疾患を治療する診療科です。そのために当院では、レントゲンだけではなくMRI、超音波診断装置、骨密度測定装置を駆使した適正な診断を行っています。

リハビリテーション治療を要する患者様のために広い理学療法室へ充実した医療機器を設置し、十分な数の理学療法士と作業療法士を配置しています。

介護が必要になった高齢の患者様には同じグループの「有料老人ホームサンライズいさ」への入居やデイサービスでの理学療法士を中心とした生活機能訓練などが利用できます。

これからも地域の皆様へ、時代先端の医療・介護を提供できるよう、職員一同努力していきます。



スタッフ一同



院内の医療機器